

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄	備考							
計画の区分	研究科の設置（専門職大学院）								
フリガナ設置者	コリウダクイフクシマケン フクシマダクイ 国立大学法人 福島大学								
フリガナ大学の名称	フクシマダクイカクイフクシマ 福島大学大学院（Graduate School of Fukushima University）								
大学本部の位置	福島県福島市金谷川1番地								
大学の目的	学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	本研究科では、地方が抱える多様な教育課題に対して各自の実践研究テーマにおける理論と実践の往還をとおし、確かな課題意識と豊かな想像力と着実な実践力をもって、地域課題及び教育課題に果敢に挑む「イノベーション人材」としての「ミドル・リーダー」「次のミドル・リーダー」「次世代のミドル・リーダー」を養成する。地域の教育課題について理解を深め幅広い視野を備えるとともに、授業力、マネジメント力など高い実践力を身につけ、常に学び続け、教育課程の改善や学校改革を牽引する「教員のミドル・リーダー」の育成をめざす。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	教職実践研究科 [Graduate School of Professional Teacher Education]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	教職高度化専攻（P） [Department of Advanced Practice for Professional Teacher]	2	12	—	24	教職修士（専門職） 【Master of Education (Professional)】	令和5年4月 第1年次	福島県福島市金谷川1番地	教職大学院
計		12	—	24					
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）	<p>食農科学研究科（令和4年3月意見伺い） 食農科学専攻（20）</p> <p>地域デザイン科学研究科（令和4年4月事前相談） 人間文化専攻（20） 地域政策科学専攻（8） 経済経営専攻（14）</p> <p>人間発達文化研究科（廃止（予定）） 教職実践専攻（△16）※令和5年4月学生募集停止 地域文化創造専攻（△17）※令和5年4月学生募集停止 学校臨床心理専攻（△7）※令和5年4月学生募集停止 地域政策科学研究科（廃止（予定）） 地域政策科学専攻（△20）※令和5年4月学生募集停止 経済学研究科（廃止（予定）） 経済学専攻（△10）※令和5年4月学生募集停止 経営学専攻（△12）※令和5年4月学生募集停止</p> <p>共生システム理工学研究科〔定員減（予定）〕 共生システム理工学専攻（△13）（令和5年4月） 環境放射能学専攻（△2）（令和5年4月）</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	教職実践研究科 教職高度化専攻	講義	演習	実験・実習	計				
		1 科目	54 科目	8 科目	63 科目	46 単位			

	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計			助手
			人	人	人	人	人	人	人	
教員組織の概要	新設分	教職実践研究科 教職高度化専攻（専門職学位課程）	15 (15)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	40 (42)	令和4年4月事前相談
		食農科学研究科 食農科学専攻（修士課程）	15 (15)	22 (22)	0 (0)	0 (0)	37 (37)	0 (0)	1 (1)	令和4年3月意見伺い
		地域デザイン科学研究科 人間文化専攻（修士課程）	35 (36)	13 (13)	1 (1)	0 (0)	49 (50)	0 (0)	154 (153)	令和4年4月事前相談
		地域政策科学専攻（修士課程）	20 (20)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	35 (35)	0 (0)	147 (147)	
		経済経営専攻（修士課程）	24 (24)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	40 (40)	0 (0)	142 (142)	
		計	109 (110)	71 (71)	1 (1)	0 (0)	181 (182)	0 (0)	— (—)	
	既設分	共生システム理工学研究科 共生システム理工学専攻（博士前期課程）	30 (32)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	47 (49)	0 (0)	5 (5)	
		環境放射能学専攻（博士前期課程）	4 (4)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	9 (9)	
		共生システム理工学専攻（博士後期課程）	29 (31)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	43 (45)	0 (0)	1 (1)	
		環境放射能学専攻（博士後期課程）	4 (4)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	8 (8)	
		計	34 (36)	23 (23)	2 (2)	0 (0)	59 (61)	0 (0)	— (—)	
合計		143 (146)	94 (94)	3 (3)	0 (0)	240 (243)	0 (0)	— (—)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事務職員		114 (114)		42 (42)		156 (156)		大学全体	
	技術職員		8 (8)		1 (1)		9 (9)			
	図書館専門職員		4 (4)		1 (1)		5 (5)			
	その他の職員		4 (4)		17 (17)		21 (21)			
計		130 (130)		61 (61)		191 (191)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	校舎敷地	170,811㎡	0㎡		0㎡		170,811㎡			
	運動場用地	81,940㎡	0㎡		0㎡		81,940㎡			
	小 計	252,751㎡	0㎡		0㎡		252,751㎡			
	その他	199,330㎡	0㎡		0㎡		199,330㎡			
合計	452,081㎡	0㎡		0㎡		452,081㎡				
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
		76,079㎡ (76,079㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		76,079㎡ (76,079㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体	
	34室	62室	95室		1室 (補助職員 0人)		0室 (補助職員 0人)			
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数					
		教職実践研究科			20 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		研究科単位での 特定不能なため、 大学全体の数	
	教職実践研究科	960,000〔236,700〕 (958,833〔236,638〕)	13,522〔2,731〕 (13,522〔2,731〕)	21,064〔21,064〕 (21,064〔21,064〕)	4,657 (4,657)	0 (0)	0 (0)			
	計	960,000〔236,700〕 (958,833〔236,638〕)	13,522〔2,731〕 (13,522〔2,731〕)	21,064〔21,064〕 (21,064〔21,064〕)	4,657 (4,657)	0 (0)	0 (0)			
図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数				大学全体	
	10,638㎡		691席		1,113,194冊					
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	3,778㎡		陸上競技場、野球場、サッカー・ラグビー場、テニスコート、バレーボールコート、弓道場、ハンドボール場、水泳プール、馬術場							

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
	教員1人当り研究費等		- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
	共同研究費等		- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
	図書購入費	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
	設備購入費	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要			-						
大学の名称	国立大学法人福島大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
人文社会学群	年	人	年次人	人		倍			
人間発達文化学類	4	260	3年次10	1,060	学士(発達文化)	1.02	平成17	福島県福島市金谷川1番地	
行政政策学類	4	185	3年次10	760	学士(法学)(社会学)	1.03	平成17		
昼間	4	20	-	80	学士(法学)(社会学)	1.08	平成31		
夜間主	4	220	3年次10	900	学士(経済学)	1.02	平成17		
経済経営学類	4								
理工学群									
共生システム理工学類	4	160	-	640	学士(理工学)	1.06	平成17	福島県福島市金谷川1番地	
農学群									
食農学類	4	100	-	400	学士(農学)	1.04	平成31	福島県福島市金谷川1番地	
人間発達文化研究科									
(専門職学位課程)									
教職実践専攻	2	16	-	32	教職修士(専門職)	0.62	平成29	福島県福島市金谷川1番地	
(修士課程)									
地域文化創造専攻	2	17	-	34	修士(地域文化)	0.88	平成21		
学校臨床心理専攻	2	7	-	14	修士(教育学)	0.99	平成13		
地域政策科学研究科									
(修士課程)									
地域政策科学専攻	2	20	-	40	修士(地域政策)	0.37	平成5	福島県福島市金谷川1番地	
経済学研究科									
(修士課程)									
経済学専攻	2	10	-	20	修士(経済学)	0.55	昭和51	福島県福島市金谷川1番地	
経営学専攻	2	12	-	24	修士(経済学)	0.74	昭和61		
共生システム理工学研究科									
(博士前期課程)									
共生システム理工学専攻	2	53	-	106	修士(理工学)	0.96	平成20	福島県福島市金谷川1番地	
環境放射能学専攻	2	7	-	14	修士(理工学)	0.49	平成31		
(博士後期課程)									
共生システム理工学専攻	3	4	-	14	博士(理工学)	0.75	平成22		
環境放射能学専攻	3	2	-	4	博士(理工学)	1.00	令和3		
既設大学の状況	<p>名称: 地域未来デザインセンター</p> <p>目的: 地域と連携した教育及び研究を支援し、地域の課題解決やイノベーション創出に貢献するとともに、新しい地域社会の在り方を提案し、地域創生に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地: 福島県福島市金谷川1番地</p> <p>設置年月: 令和4年4月</p> <p>規模等: 土地 金谷川キャンパス(432,894㎡)の一部、建物 経済経営学類棟(6,710㎡)の一部</p>								
	<p>名称: 情報基盤センター</p> <p>目的: 福島大学における情報処理システム及び情報ネットワークシステムを整備運用し、情報処理を効率的に行うとともに、教育及び学術研究の進展に資することを目的とする。</p> <p>所在地: 福島県福島市金谷川1番地</p> <p>設置年月: 平成15年4月</p> <p>規模等: 土地 金谷川キャンパス(432,894㎡)の一部、建物 2,204㎡</p>								
	<p>名称: 保健管理センター</p> <p>目的: 福島大学の学生及び職員の健康の保持増進を目的とする。</p> <p>所在地: 福島県福島市金谷川1番地</p> <p>設置年月: 昭和56年4月</p> <p>規模等: 土地 金谷川キャンパス(432,894㎡)の一部、建物 441㎡</p>								
	<p>名称: 国際交流センター</p> <p>目的: 海外の大学等との学術交流及び学生交流の企画・推進、留学生教育の企画立案及び教育研究面での国際交流を図ることを目的とする。</p> <p>所在地: 福島県福島市金谷川1番地</p> <p>設置年月: 平成24年4月</p> <p>規模等: 土地 金谷川キャンパス(432,894㎡)の一部、建物 S講義棟(4,360㎡)の一部</p>								

附属施設の概要	<p>名称：アドミッションセンター</p> <p>目的：アドミッションポリシーに応じた入学者選抜を実現するための具体的方策を企画・立案し、円滑な入学者選抜の実施を図ることを目的とする。</p> <p>所在地：福島県福島市金谷川1番地</p> <p>設置年月：平成28年4月</p> <p>規模等：土地 金谷川キャンパス (432,894㎡) の一部， 建物 事務局棟 (2,440㎡) の一部</p>	
	<p>名称：環境放射能研究所</p> <p>目的：国内外の研究機関と連携し、温帯多雨地域における放射性物質による環境への長期的な影響の調査・研究を行い、環境放射能動態について解明することを目的とする。</p> <p>所在地：福島県福島市金谷川1番地</p> <p>設置年月：平成25年7月</p> <p>規模等：土地 金谷川キャンパス (432,894㎡) の一部， 建物 5,937 ㎡</p>	
	<p>名称：食農学類附属発酵醸造研究所</p> <p>目的：研究所は、発酵醸造に関する総合的な基盤研究と地域の課題を解決する橋渡し研究を推進し、これを国際的な課題や地球規模の課題の解決にも貢献する学際的先端研究として発展させることを目的とする。</p> <p>所在地：福島県福島市金谷川1番地</p> <p>設置年月：令和3年4月</p> <p>規模等：土地 金谷川キャンパス (432,894㎡) の一部， 建物 食農学類管理棟 (2,530㎡) の一部</p>	
	<p>名称：食農学類附属農場</p> <p>目的：農学群の教育・研究に資することを目的とする。</p> <p>所在地：福島県福島市松川町浅川字體2～6番， 福島県福島市松川町浅川字體27番1， 福島県福島市松川町浅川字體41番1， 福島県福島市松川町浅川字前田29番， 福島県福島市松川町浅川字前田22番1， 福島県福島市松川町浅川字武須沢16番， 福島県福島市松川町浅川字西森2番1</p> <p>設置年月：平成31年4月</p> <p>規模等：土地 19,187 ㎡， 建物 — ㎡</p>	
	<p>名称：福島大学附属幼稚園</p> <p>目的：幼児を保育し、健やかな成長のために適当な環境を与えて、心身の発達を助長するとともに、教育の理論及び実践に関する研究を行い、教育実習の実施に当たることを目的とする。</p> <p>所在地：福島県福島市浜田町12-39</p> <p>設置年月：昭和41年4月</p> <p>規模等：土地 5,033㎡， 建物 615㎡</p>	
	<p>名称：福島大学附属小学校</p> <p>目的：義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを行うとともに、小学校教育の理論及び実践に関する研究を行い、教育実習の実施に当たることを目的とする。</p> <p>所在地：福島県福島市新浜町4-6</p> <p>設置年月：昭和26年4月</p> <p>規模等：土地 18,804㎡， 建物 9,018㎡</p>	
	<p>名称：福島大学附属中学校</p> <p>目的：義務教育として行われる普通教育を行うとともに、中学校教育の理論及び実践に関する研究を行い、教育実習の実施に当たることを目的とする。</p> <p>所在地：福島県福島市浜田町12-26</p> <p>設置年月：昭和26年4月</p> <p>規模等：土地 34,808㎡， 建物 6,177㎡</p>	
	<p>名称：福島大学附属特別支援学校</p> <p>目的：知的発達に遅れのある児童生徒に対して教育を行うとともに、教育の理論及び実践に関する研究を行い、教育実習の実施に当たることを目的とする。</p> <p>所在地：福島県福島市八木田字並柳71</p> <p>設置年月：昭和52年4月</p> <p>規模等：土地 12,031㎡， 建物 4,307㎡</p>	

教育課程等の概要																
(教職実践研究科教職高度化専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
目盤院大 科基学	イノベーション・リテラシー	1前	2			○									兼1	
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	0	兼1	
共通5 領域	域関の教 す実編育 る施成課 領に及程	教育課程編成実践研究	1前		2			○								
		特別支援学校における教育課程編成の実践★	1前		2			○		1						
		小計 (2科目)	—	0	4	0	—			1	1	0	0	0	0	
	領に指実教 域関導践科 す方的等 る法なの	授業デザインの理論と実際	1前	2				○		1	1					共同
		教材開発と教育方法の実践と課題	1後	2				○			2					共同
		小計 (2科目)	—	4	0	0	—			1	2	0	0	0	0	—
	域にび生 関教徒指 す育指導 る相導 領談及	生徒指導の事例研究	1後		2			○		1						
		学校カウンセリングの事例研究	1前		2			○		1						
		特別な支援が必要な生徒に対する学校カウンセリングの実践★	1後		2			○		1						
		小計 (3科目)	—	0	6	0	—			2	0	0	0	0	0	—
	す学学 る校級 領経経 域営営 に及 関び	学校・学級づくりの実践研究	1後		2			○		2						共同
		特別支援学校における学級経営の実践研究★	1前		2			○		1						
		特別支援学校における学校経営の実践研究★	1後		2			○		1						
		小計 (3科目)	—	0	6	0	—			3	0	0	0	0	0	—
	領方教学 域に員校 関の教 す育 るりと	学校と地域	1前		2			○		1						
	公教育の理念と教育改革	1後		2			○		1							
	特別支援学校と地域の実践研究★	1後		2			○		1							
	小計 (3科目)	—	0	6	0	—			3	0	0	0	0	0	—	
域独 自領	福島の学校と教育課題Ⅰ	1前	1				○		1							
	福島の学校と教育課題Ⅱ	2前	1				○		1							
	小計 (2科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	0	—	
選択 領域	学校 改革 領域	学校マネジメント論及び事例研究	1後		2			○		2					共同	
		ミドル・リーダー論と実際	1前		2			○		2					共同	
		教師の成長と授業研究	1後		2			○			1					
		世界の教育改革と現在	1前		2			○			1					
		小計 (4科目)	—	0	8	0	—			2	2	0	0	0	0	—
授業 改善 領域	主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅰ(言語活動・表現活動)	1後		2				○		3					隔年、共同	
	主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅱ(課題探求・解決力)	1前		2				○							兼1 隔年、共同	
	主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅲ(協働的問題解決・自己有用感)	1後		2				○		3					隔年、オムニバス・共同(一部)	
	国語科授業デザイン論	1後		2				○		1					兼5 オムニバス・共同(一部)	
	社会科授業デザイン論	1後		2				○		1					兼6 オムニバス・共同(一部)	
	算数・数学科授業デザイン論	1後		2				○		1					兼2 オムニバス・共同(一部)	
	理科授業デザイン論	1後		2				○			1				兼1 共同	
	音楽科授業デザイン論	1後		2				○		1					兼4 共同	
	図画工作・美術科授業デザイン論	1後		2				○		1					兼3 オムニバス	
家庭科授業デザイン論	1前		2				○							兼4 オムニバス・共同(一部)		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
選択領域	授業改善領域	体育科授業デザイン論	1後	2			○		1						兼7 兼7 共同	オムニバス・共同(一部) 隔年、オムニバス・共同(一部) 共同
		英語科授業デザイン論	1後	2			○									
		道徳科授業デザイン論	1前	2			○		1							
		生活科・総合的な学習の時間に関する授業デザイン論	1後	2			○		1							
		ICTを活用した授業デザインと実際	1前	2			○			1						
		教育実践研究のためのデータ処理理論	1前	2			○			1						
		インクルーシブ理念と障害理解教育論	1前	2			○			1						
		小計(17科目)	—	0	34	0	—	—	8	2	0	0	0	0		
	実践特別支援領域に関する理論と	知的・発達障害教育特論★	1後	2			○			1						
		障害児に対する実践的指導方法の事例研究★	1後	2			○		1							
障害児に対する実践的指導方法の実際★		1前	2			○		1								
応用行動分析学からみた知的障害教育の事例と実践★		1後	2			○		1								
自立活動の事例と実践★		1前	2			○		1								
病弱児教育の事例と実践★		1後	2			○		1								
小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	3	1	0	0	0	0	0	—		
学校における実習領域	シタイン領 域 ン プ ン	長期インターンシップ I	1前	4			○	14	5						共同	
		長期インターンシップ II	1後	6			○	14	5						共同	
	小計(2科目)	—	0	10	0	—	—	14	5	0	0	0	0	—		
学校実習領域	学校実習領域	教職専門実習 I	1前	2			○	14	5						共同	
		教職専門実習 II	1前	3			○	14	5						共同	
		学校支援実習 I	1後	2			○	14	5						共同	
		学校支援実習 II	1後	3			○	14	5						共同	
		教育実践高度化実習	2通	6			○	14	5						共同	
		学校課題対応実習	2通	4			○	14	5						共同	
		小計(6科目)	—	0	20	0	—	—	14	5	0	0	0	0	—	
プロジェクト研究領域	教育実践高度化領域	教育実践高度化プロジェクト研究 I	1前	1			○	11	4						共同	
		教育実践高度化プロジェクト研究 II	1後	1			○	11	4						共同	
		教育実践高度化プロジェクト研究 III	2前	1			○	11	4						共同	
		教育実践高度化プロジェクト研究 IV	2後	1			○	11	4						共同	
		小計(4科目)	—	0	4	0	—	—	11	4	0	0	0	0	—	
	学校課題対応領域	学校課題対応領域	学校課題対応プロジェクト研究 I	1前	1			○	11	4						共同
			学校課題対応プロジェクト研究 II	1後	1			○	11	4						共同
			学校課題対応プロジェクト研究 III	2前	1			○	11	4						共同
			学校課題対応プロジェクト研究 IV	2後	1			○	11	4						共同
			小計(4科目)	—	0	4	0	—	—	11	4	0	0	0	0	—
特別支援教育高度化領域	特別支援教育高度化領域	特別支援教育実践プロジェクト研究 I★	1前	1			○	3	1						共同	
		特別支援教育実践プロジェクト研究 II★	1後	1			○	3	1						共同	
		特別支援教育実践プロジェクト研究 III★	2前	1			○	3	1						共同	
		特別支援教育実践プロジェクト研究 IV★	2後	1			○	3	1						共同	
		小計(4科目)	—	0	4	0	—	—	3	1	0	0	0	0	—	
合計(63科目)		—	8	118	0	—	—	15	5	0	0	0	0	兼40	—	
学位又は称号	教職修士(専門職)	学位又は学科の分野				教員養成関係										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
修了要件は、大学院基盤科目2単位（必修）、共通5領域20単位（必修）、選択領域10単位（選択必修）、学校における実習領域10単位（必修）、プロジェクト研究領域4単位（必修）、合計46単位以上を修得した者とする。履修科目の登録上限は44単位である。修了するにあたっては、ラウンドテーブル等での発表を義務づける。★は特別支援学校教諭専修免許状取得に関わるものである。 <共通5領域20単位（必修）の履修方法> ○ミドル・リーダー養成コース（現職教員学生のみ）及び授業デザインコース（現職教員学生及び学部新卒学生）では、「教育課程の編成及び実施に関する領域」「教科等の実践的な指導方法に関する領域」「生徒指導及び教育相談に関する領域」「学校教育と教員の在り方に関する領域」「独自領域」のうち★を付していない各科目を必修とする。ミドル・リーダー養成コースでは、「学級経営及び学校経営に関する領域」のうち「学校・学級づくりの実践研究」「特別支援学校における学校経営の実践研究」の4単位を履修する。授業デザインコースでは、「学校・学級づくりの実践研究」「特別支援学校における学級経営の実践研究」の4単位を履修する。○特別支援教育コース（現職教員学生及び学部新卒学生）では、特別支援学校教諭専修免許状に関する科目（★を付している各科目）を必修とする。加えて、「生徒指導及び教育相談に関する領域」のうち「生徒指導の事例研究」「学校カウンセリングの事例研究」から2単位を選択して履修する。「学校教育と教員の在り方に関する領域」のうち「学校と地域」「公教育の理念と教育改革」から2単位を選択して履修する。「教科等の実践的な指導方法に関する領域」「独自領域」は必修とする。 <選択領域10単位（選択必修）の履修方法> ○ミドル・リーダー養成コース（現職教員学生のみ）は、「学校改革領域」の「学校マネジメント論及び事例研究」2単位を必修として、「学校改革領域」の他の科目あるいは「授業改善領域」の「主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅰ～Ⅲ」から8単位選択して履修する。○授業デザインコースでは、現職教員学生は、「学校改革領域」の「教師の成長と授業研究」「世界の教育改革と現在」及び「授業改善領域」の全ての科目から10単位を選択して履修する。学部新卒学生は、「授業改善領域」の全ての科目から10単位を選択して履修する。その際、「主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅰ～Ⅲ」から2単位を選択必修とする。○特別支援教育コースでは、全ての学生について、「特別支援に関する理論と実践領域」から8単位を選択して履修する。その上で、各学生の希望に応じて履修を以下のようにする。ミドル・リーダーを目指す現職教員学生においては、「学校改革領域」の「学校マネジメント論及び事例研究」2単位を必修とする。授業高度化を目指す現職教員学生においては、「学校改革領域」の「教師の成長と授業研究」「世界の教育改革と現在」及び「授業改善領域」の全ての科目から2単位を選択して履修する。学部新卒学生においては、「授業改善領域」の全ての科目から2単位を選択して履修する。 <学校における実習領域10単位（必修）の履修方法> ○ミドル・リーダー養成コース（現職教員学生のみ）では、「教職専門実習Ⅱ」「学校支援実習Ⅱ」「学校課題対応実習」を必修とする。○授業デザインコースでは、現職教員学生は、「教職専門実習Ⅰ」「学校支援実習Ⅰ」「教育実践高度化実習」を必修とする。「長期インターンシップⅠ・Ⅱ」を必修とする。○特別支援教育コースでは、ミドル・リーダーを目指す現職教員学生は「教職専門実習Ⅱ」「学校支援実習Ⅱ」「学校課題対応実習」を必修とする。授業高度化を目指す現職教員学生は「教職専門実習Ⅰ」「学校支援実習Ⅰ」「教育実践高度化実習」を必修とする。学部新卒学生は、「長期インターンシップⅠ・Ⅱ」を必修とする。 <プロジェクト研究領域（4単位）の履修方法> コースに対応した領域の4科目4単位を必修とする。						1学年の学期区分		2学期						
						1学期の授業期間		15週						
						1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要															
(人間発達文化研究科教職実践専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通5領域	域関の教育編成に及	教育課程編成実践研究	1前	2				○			1				
		特別支援学校における教育課程編成の実践★	1前	2				○		1					
		小計（2科目）	—	0	4	0		—		1	1	0	0	0	0
	域指実教	授業づくりの理論と実際	1前	2				○		1	1				共同
	域関導実践	教材開発と教育方法の実際と課題	1後	2				○			2				共同
		小計（2科目）	—	4	0	0		—		1	2	0	0	0	0
	域にび生	生徒指導の事例研究	1前	2				○		1					
	域関教	学校カウンセリングの事例研究	1前	2				○		1					
	域指実教	特別な支援が必要な生徒に対する学校カウンセリングの実際★	1後	2				○		1					
		小計（3科目）	—	0	6	0		—		2	0	0	0	0	0
学級経営	学校・学級づくりの実践研究	1後	2				○		2					共同	
	特別支援学校における学級経営の実践研究★	1前	2				○		1						
	特別支援学校における学校経営の実践研究★	1後	2				○		1						
	小計（3科目）	—	0	6	0		—		3	0	0	0	0	0	
域あ学	学校と地域	1後	2				○		1						
	公教育の理念と教育改革	1後	2				○		1						
	特別支援学校と地域の実践研究★	1後	2				○		1						
	福島の学校と教育課題Ⅰ	1前	1				○		1						
	福島の学校と教育課題Ⅱ	2前	1				○		1						
	小計（5科目）	—	2	6	0		—		3	0	0	0	0	0	
域学	学校マネジメント論及び事例研究	1後	2				○		2					共同	
	教師の成長と授業研究	1後	2				○			1					
	世界の教育改革と現在	1前	2				○			1					
	小計（3科目）	—	0	6	0		—		2	2	0	0	0	0	
授業改善	主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅰ（言語活動・表現活動）	1後	2				○		2					兼1 共同	
	主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅱ（課題探求・解決力）	1前	2				○		2					共同	
	主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅲ（協働的問題解決・自己有用感）	1後	2				○		3					オムニバス・共同（一部）	
	国語授業の理論と実践	1後	2				○		1					兼5 オムニバス・共同（一部）	
	社会科授業の理論と実践	1後	2				○		1					兼6 オムニバス・共同（一部）	
	算数・数学授業の理論と実践	1後	2				○		1					兼2 オムニバス・共同（一部）	
	理科授業の理論と実践	1後	2				○		1					兼2 共同	
	音楽授業の理論と実践	1後	2				○		1					兼4 共同	
	図画工作・美術授業の理論と実践	1後	2				○							兼4 オムニバス	
	家庭科授業の理論と実践	1前	2				○		1					兼4 オムニバス・共同（一部）	
	体育授業の理論と実践	1後	2				○		1					兼7 オムニバス・共同（一部）	
	英語授業の理論と実践	1後	2				○							兼6 オムニバス・共同（一部）	
道徳科授業の理論と実践	1前	2				○		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
選択領域	授業改善領域	生活科・総合的な学習の時間に関する理論と実践	1後		2			○		2						共同	
		インクルーシブ教育システムと障害理解教育の実践	1前		2			○								兼1	
		小計 (15科目)	—	0	30	0				9	0	0	0	0	0	兼41	—
	と特別実践支援領域に関する理論	障害児に対する実践的指導方法の事例研究★	1後		2				○		1						
		障害児に対する実践的指導方法の実際★	1前		2				○		1						
		応用行動分析学からみた知的障害教育の事例と実践★	1後		2				○		1						
		自立活動の事例と実践★	1前		2				○		1						
病弱児教育の事例と実践★		1後		2				○		1							
小計 (5科目)	—	0	10	0					3	0	0	0	0	0	—		
学校における実習領域	長期インターンシップ I	1前		4				○	16	3						共同	
	長期インターンシップ II	1後		6				○	16	3						共同	
	教職専門実習 I	1前		2				○	16	3						共同	
	教職専門実習 II	1前		3				○	16	3						共同	
	学校支援実習 I	1後		2				○	16	3						共同	
	学校支援実習 II	1後		3				○	16	3						共同	
	教育実践高度化実習	2通		6				○	16	3						共同	
	学校課題対応実習	2通		4				○	16	3						共同	
	小計 (8科目)	—	0	30	0					16	3	0	0	0	0	—	
プロジェクト研究領域	教育実践高度化プロジェクト研究 I	1前		2				○	13	3						共同	
	教育実践高度化プロジェクト研究 II	1後		2				○	13	3						共同	
	教育実践高度化プロジェクト研究 III	2前		2				○	13	3						共同	
	教育実践高度化プロジェクト研究 IV	2後		2				○	13	3						共同	
	学校課題対応プロジェクト研究 I	1前		2				○	13	3						共同	
	学校課題対応プロジェクト研究 II	1後		2				○	13	3						共同	
	学校課題対応プロジェクト研究 III	2前		2				○	13	3						共同	
	学校課題対応プロジェクト研究 IV	2後		2				○	13	3						共同	
	特別支援教育実践プロジェクト研究 I ★	1前		2				○	3							共同	
	特別支援教育実践プロジェクト研究 II ★	1後		2				○	3							共同	
	特別支援教育実践プロジェクト研究 III ★	2前		2				○	3							共同	
	特別支援教育実践プロジェクト研究 IV ★	2後		2				○	3							共同	
	小計 (12科目)	—	0	24	0					16	3	0	0	0	0	—	
合計 (58科目)		—	6	122	0				16	3	0	0	0	0	兼41	—	
学位又は称号	教職修士 (専門職)	学位又は学科の分野			教員養成関係												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p>修了要件は、共通5領域20単位（必修）、選択領域8単位（選択必修）、学校における実習領域10単位（必修）、プロジェクト研究領域8単位（必修）、合計46単位以上を修得した者とする。修了するにあたっては、ラウンドテーブル等への参加または報告を義務づける。★は特別支援学校教諭専修免許状取得に関わるものである。</p> <p><共通5領域20単位（必修）の履修方法> ○ミドル・リーダー養成コース（現職教員学生のみ）及び教育実践高度化コース（現職教員学生及び学部新卒学生）では、「教育課程の編成及び実施に関する領域」「教科等の実践的な指導方法に関する領域」「生徒指導及び教育相談に関する領域」「学校経営及び学級経営に関する領域」「学校教育と教員のあり方に関する領域」のうち★を付していない各科目を必修とする。 ミドル・リーダー養成コースでは、「学校経営及び学級経営に関する領域」のうち「学校・学級づくりの実践研究」「特別支援学校における学校経営の実践研究」の4単位を履修する。 教育実践高度化コースでは、「学校経営及び学級経営に関する領域」のうち「学校・学級づくりの実践研究」「特別支援学校における学級経営の実践研究」の4単位を履修する。 ○特別支援教育高度化コース（現職教員学生及び学部新卒学生）では、特別支援学校教諭専修免許状に関する科目（★を付している各科目）を必修とする。加えて、「生徒指導及び教育相談に関する領域」のうち「生徒指導の事例研究」「学校カウンセリングの事例研究」から2単位を選択して履修する。「学校教育と教員のあり方に関する領域」のうち「学校と地域」「公教育の理念と教育改革」から2単位を選択して履修する。「教科等の実践的な指導方法に関する領域」の各科目と「学校教育と教員のあり方に関する領域」の「福島の学校と教育課題Ⅰ・Ⅱ」は必修とする。</p> <p><選択領域8単位（選択必修）の履修方法> ○ミドル・リーダー養成コース（現職教員学生のみ）は、「学校改革領域」の「学校マネジメント論及び事例研究」2単位を必修として、「学校改革領域」の他の科目あるいは「授業改善領域」の「主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅰ～Ⅲ」から6単位を選択して履修する。 ○教育実践高度化コースでは、現職教員学生は、「学校改革領域」の「教師の成長と授業研究」「世界の教育改革と現在」及び「授業改善領域」の全ての科目から8単位を選択して履修する。学部新卒学生は、「授業改善領域」の全ての科目から8単位を選択して履修する。その際、「主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅰ～Ⅲ」から2単位を選択必修とする。 ○特別支援教育高度化コースでは、全ての学生について、「特別支援に関する理論と実践領域」から6単位を選択して履修する。その上で、各学生の希望に応じて履修を以下のようにする。 ミドル・リーダーを目指す現職教員学生においては、「学校改革領域」の「学校マネジメント論及び事例研究」2単位を必修とする。 授業高度化を目指す現職教員学生においては、「学校改革領域」の「教師の成長と授業研究」「世界の教育改革と現在」及び「授業改善領域」の全ての科目から2単位を選択して履修する。 学部新卒学生においては、「授業改善領域」の全ての科目から2単位を選択して履修する。</p> <p><学校における実習領域10単位（必修）の履修方法> ○ミドル・リーダー養成コース（現職教員学生のみ）では、「教職専門実習Ⅱ」「学校支援実習Ⅱ」「学校課題対応実習」を必修とする。 ○教育実践高度化コースでは、現職教員学生は、「教職専門実習Ⅰ」「学校支援実習Ⅰ」「教育実践高度化実習」を必修とする。学部新卒学生は、「長期インターンシップⅠ・Ⅱ」を必修とする。 ○特別支援教育高度化コースでは、ミドル・リーダーを目指す現職教員学生は「教職専門実習Ⅱ」「学校支援実習Ⅱ」「学校課題対応実習」を必修とする。授業高度化を目指す現職教員学生は「教職専門実習Ⅰ」「学校支援実習Ⅰ」「教育実践高度化実習」を必修とする。学部新卒学生は、「長期インターンシップⅠ・Ⅱ」を必修とする。</p> <p><プロジェクト研究領域（8単位）の履修方法> コースに対応した領域の4科目8単位を必修とする。</p>						1 学年の学期区分		2 学期						
						1 学期の授業期間		1 5 週						
						1 時限の授業時間		9 0 分						

授 業 科 目 の 概 要			
(教職実践研究科教職高度化専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科 大 目 学 院 基 盤	イノベーション・リテラシー	本講では、まず福島における震災復興プロセス・結果を多様な視点から振り返ることで、今日的課題を総合的に理解することを目指す。その上で、代表的なイノベーション理論・手法の概要、ならびに先進的なイノベーションの取組み事例を理解することで、今日的課題の解決に資する研究ならびに実践的な取組みに繋げていくことを目的としている。	
共 通 5 領 域	教育課程編成実践研究	教科と領域等を結びカリキュラム・デザインができる教員を育成する。具体的には、現職教員学生と学卒学生に応じて、各学校を通じての教育課程の編成方法及び構成要素間の関連の在り方、個々の児童生徒等の学びの履歴の在り方について理解する。各学校の児童生徒等の状況や教職員の力量、地域との関係など学校の実情を踏まえ、当該校の教育課程全体の編成について多様な計画を試作することができる。また、それぞれに予想される効果等の検証や最善の計画の選択を行い、教職員集団をリードしその実施に当たることができる力量を身につける。現職教員学生と学卒学生との指導目標の違いを十分配慮しながらも、集団的メンター・メンティー形態（チーム・ネットワーク形態）を重視したワークショップをはじめ多様な教育方法を通じて授業を行う。	
	特別支援学校における教育課程編成の実践	特別支援学校における教育課程編成について、理論的理解及び実践的理解を目指す科目である。主に特別支援学校（知的障害・肢体不自由・病弱）に関する教育課程について学ぶとともに、特別支援学校（知的障害）の教育課程の特徴を理解することで、医療的ケア児を含む重度・重複障害に関する教育課程の理解を深める。さらに、小・中学校等における特別支援学級や通級による指導の教育課程の在り方についても理解を深める。講義および事例検討を通じた学びにより、社会に開かれた教育課程の在り方や「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すための深い省察を行う。	
域 教 科 等 の 実 践 的 な 指 導 方 法 に 関 す る 領 域	授業デザインの理論と実際	授業デザインとそれを支える教師の専門性に関して、先行事例の検討や文献購読等により実践と理論を結びつけることで理解を深める。具体的には、授業実践の記録や文献等に基づく他者との協働的な省察を通して、授業デザインに不可欠となる子どもの学びを省察する視点を形成すると共に、自らの経験等を振り返り授業観や教師観の再構築を行う。これらを通して、Society5.0時代に向けた探究的な学びを創造するための基礎的な考え方を身につける。 第1回～15回まで、6 坂本 篤史と19 宗形 潤子が共同で実施する。	共同
	教材開発と教育方法の実践と課題	授業デザイン論に基づいた教材開発の考え方と、それを支える教師の専門性に関して、先行事例の検討や文献購読、模擬授業実践と省察等により実践と理論を結びつけることで理解を深める。実習の展開と有機的に関連づけ、他者との協働的な実践と省察を通して子どもの学びを省察する視点をより深めるとともに、自らの経験等を振り返り授業観や教師観、教材観の再構築を行う。これらを通して、Society5.0時代に向けた探究的な学びを創造するための基礎的な考え方を発展させる。 第1回～15回まで、6 坂本 篤史と21 鳴川 哲也が共同で実施する。	共同
生 徒 指 導 及 び 教 育 相 談 に 関 す る 領 域	生徒指導の事例研究	生徒指導の基本的な視点を学ぶとともに、生徒指導の問題のうち、不登校問題に視点をあてる。不登校の主因の一つは、子どもと家庭と学校との3者の人間関係の偏り原因である（不登校の関係論的アプローチ）。三者に視点を当てることで児童生徒の「問題行動」観を見直すことができ、他の生徒指導分野にも応用可能である。不登校児童生徒の多様な事例をもとに、児童生徒、家庭、学校の役割を見直す。それらを通じて児童生徒の生き方や義務教育を保障する生徒指導のあり方を検討し、教師の生徒指導力や関係修復力を高める。	
	学校カウンセリングの事例研究	学校場面で必要とされるカウンセリングの知識・技術を習得するとともに、さまざまな事例を通じて課題を抽出するとともに、個に応じた適切な支援の方法と学校、家庭、地域、関係諸機関との連携などについて検討する。それらを通じて、学校現場におけるカウンセリングマインドを身につけるとともに、教員としての実践力を高める。カウンセリングは、人間の心理や発達理論に基づく対人援助活動であり、個人の成長を促進し対人関係の改善や社会的適応性を向上させる。学校教育においては、カウンセリング心理学に基づくアプローチで接することで、幼児児童生徒の人格形成や様々な問題解決に有効であるとされていることから、充実したスクールカウンセリング活動ができる力を育成する。	
	特別な支援が必要な生徒に対する学校カウンセリングの実際	特別な支援が必要とされる児童生徒に対する生活指導と学校カウンセリングの実践に基づく事例検討を行う。カウンセリングは、人間の心理や発達理論に基づく対人援助活動であり、個人の成長を促進し対人関係の改善や社会的適応能力を向上させる。個々の児童生徒の教室での状況や家庭環境、関係機関との連携状況を把握し課題を整理するとともに、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」に基づき、日常的な指導方法と多角的な支援方法を検討する。また、特別支援学校に在籍する児童生徒について、障害種に応じた生徒指導とカウンセリングマインドに基づいた支援の実際など、障害のある児童生徒への適切な対応方法について理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通5領域	学級経営及び学校経営に関する領域	戦後の学校経営・学校づくり論の理論的整理と共に、現代学校経営の基礎となった1998年中教審答申の「学校の自律性」以降から現在の「地域と共にある学校」にいたるまでの学校経営・学校づくりの指針を学んだ上で、現在進行しつつある特徴ある学校づくりの事例を小学校、中学校に求め、校長のリーダーシップやミドル・リーダーの役割を明らかにする。その際実際の学校を訪問し、校長やミドル・リーダーの役割の聞き取り調査を行う。また、各学校における学校経営・学校づくりが日々の学級経営・学級づくりにどのような影響を与えているかについて検討する。また、逆に特徴ある学級づくりと学校経営の関連について、事例をもとに検討し、学校づくりと学級づくりの相互作用のあり方について明らかにする。 第1回～15回まで、10 宮武 泰・11 大橋 淳子が共同で実施する。	共同
	特別支援学校における学級経営の実践研究	特別支援学校における学級経営について、理論的理解及び実践的理解を目指す科目である。県内の各特別支援学校（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）における具体的な配慮事項を基にした実践を踏まえ、その現状と課題について考察を進めていく。さらに、重複障害学級の経営の在り方について理解を深めることで、多様な障害に対応した指導の在り方や院内学級など重症心身障害児に対応した指導の在り方について講義および事例検討を行うなど、障害の重複化・重度化にも対応した学級経営について、深い省察を行う。	
	特別支援学校における学校経営の実践研究	特別支援学校における学校経営について、理論的理解及び実践的理解を目指す科目である。特別支援学校に勤務する教職員が、その職務を遂行するに当たり、教育に関する法令及び服務等について体系的に理解し、教職員として果たすべき任務と責任について詳細に学び、ミドルリーダーとしての資質を高める。さらに、学校における働き方改革や業務改善、協働性、心理的安全性を確保した職場環境づくりについて学ぶとともに、全ての教職員がそれぞれのリーダーシップを発揮し、学校教育活動に強みや適性等を生かすことのできる学校経営の在り方について、講義および事例検討を通じた学びにより、深い省察を行う。	
学校教育と教員の在り方に関する領域	学校と地域	授業の前半は、子育て、環境問題、地域福祉など、現代社会の抱える諸課題に取り組む地域住民・保護者等の市民が展開する学習と行動の実際をとらえる。授業の約半分の時間は、事前に用意した論文や実践記録を素材に、学生相互で議論を行う。授業の運営に際しては、報告者と司会者を決め、報告者による論文・実践記録の内容紹介と論点の提案を受け、司会者の進行にもとづき、学生がそれまでの経験値を交えながら議論を展開させ諸課題について理解を深める。後半では、広く現代の「地域と学校」に関わる諸問題を取り上げ、先駆的实践例を検討し討議を重ね、それらの実践を支えた構造と方法等について探究する。	
	公教育の理念と教育改革	19世紀以降各国において確立してくる公教育について、基本的事項を学ぶ中でその理念を明らかにし、これからの教育実践を担うにふさわしい教育観を各自が持つことを目的とする。具体的には、日本の公教育制度の確立、戦前の教育、戦後教育改革について基本的な事項を紹介しながらその理念について明らかにし、現在の教育改革の動向について、教育基本法改正以降の日本について触れるとともに、アメリカ、イギリス、北欧の事情も紹介する。事前配布する資料を読了していることを前提に、レクチャー、小グループでの議論、全体の議論を進めていく。	
	特別支援学校と地域の実践研究	障害のある子供の自立と社会参加を見据え、子供一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供するための必要な支援等について学ぶ科目である。特別支援学校では地域でのセンター的機能を生かし、地域の小・中学校等と連携・協力し、教育相談、就学指導、進路指導等、幼児児童生徒に対する支援、教員に対する支援等の充実に努めている。実際の就学に係る一連のプロセスなどの実践的事例検討を通して、特別支援学校と地域との関係について研究を深めるとともに、関係機関の連携強化による切れ目のない支援の充実や交流及び共同学習の今後の在り方についても実践的な研究を進めていく。	
独自領域	福島と教育課題Ⅰ	震災後の福島の教育について、双葉郡とその他の地域のそれぞれについて学校がどのような状況に置かれてきたかの概要を理解する。担当教員によるレクチャー、受講者による体験の紹介から始めるが、避難を余儀なくされている双葉郡の小中学校、ふたば未来学園についてはそれぞれの先生方による講演も予定している。それを受けて、福島の教育課題は何かについて、受講者同士のディスカッションにより明らかにしていく。本授業は1単位であるが、1、2年生による合同の授業である。それぞれの立場からのコラボレーションがおこなわれることとなる。	
	福島と教育課題Ⅱ	震災後の福島の教育について、双葉郡とその他の地域のそれぞれについて学校がどのような状況に置かれてきたかの概要を理解する。担当教員によるレクチャー、受講者による体験の紹介から始めるが、避難を余儀なくされている双葉郡の小中学校、ふたば未来学園についてはそれぞれの先生方による講演も予定している。それを受けて、福島の教育課題は何かについて、受講者同士のディスカッションにより明らかにしていく。本授業は1単位であるが、1、2年生による合同の授業である。Ⅱの受講者は前年度のⅠでの学びをもとに1年生をサポート・リードし、それぞれの立場からのコラボレーションがおこなわれることとなる。	
選択領域	学校改革領域	「学校・授業・子ども・教師」の観点から、これまでの教育活動について振り返りつつ、地域や保護者、子どもから信頼される学校経営（学級経営）構築のための基礎的事項として、学校組織マネジメントを中心に、危機管理（リスク/クライシスマネジメント）、諸機関との連携による生徒指導、今日的な教育課題等について学ぶ。更に、より現実的な学校課題把握並びに、先進的な取組をしている学校経営を探究していくために、地域の公立学校の訪問調査研究等も積極的に取り入れる。授業全体として、学生の主体的な学びを重視し、アクティブラーニングの手法を柔軟に取り入れた協働による学び合いを中心に授業を展開する。 第1回、第8回～15回は共同で実施する。11 大橋 淳子が共同9回、単独3回を担当し、教育改革の動向を踏まえ、学級経営並びに学校経営の今日的課題を整理し、「学校マネジメント」の基礎的事項の理解を促す。20 高野 孝男が共同9回、単独3回を担当し、「学校マネジメント」の施策を概観し、大震災発災時における学校の具体的な取組を振り返りながら、「学校マネジメント」の機能を生かした学校運営改善のための方策を追究する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択領域	学校改革領域	<p>学校におけるミドル・リーダーとは、未だ多義的ではあるが、管理職を除く「校内の中核的な存在の教員（中堅教員）」であり、主に30代後半から40代に係る教員たちである。ミドル・リーダーの養成は、教員の大量退職時代を迎えた今、喫緊の課題となっている。学校の抱える多様化・複雑化した課題に、協働的に取り組むことができる組織マネジメント能力をもったミドル・リーダーを育てる必要がある。本講義では、1. 学校改革の方向性、2. ミドル・リーダーが求められる背景、3. 学校管理職とミドル・リーダーの役割、4. その資質能力、を整理した上で、5. ミドル・リーダーの実態を調査し、ミドル・リーダー力の改善の指針を得ることを目標とする。</p> <p>第1回～15回まで、11 大橋 淳子・20 高野 孝男が共同で実施する。</p>	共同
	教師の成長と授業研究	<p>これからの時代に求められる授業研究と、それを通じた教師の学びのあり方について、先行事例の検討や文献購読に加え、現場での観察や記録の検討を通して学ぶ。現職研修の様々な機会における授業研究会への参与観察や参加観察等により、授業をデザインし、実施し、省察し、記録化し、リデザインするサイクルと教師の学習過程の関係について、理論と実践を結びつけることで理解を深めると共に、ミドル・リーダーとしての授業研究会の運営と実施への洞察を深める。</p>	
	世界の教育改革と現在	<p>本授業は、国際的な教育改革について理解を深め、日本および世界の教育問題について考察する力の獲得を目指すものである。先進国を中心とした先駆的な教育改革に加えて、途上国の教育開発について学び、グローバルに物事を考えられる視点を身につける。先進国の先駆的な事例として、アメリカ、イギリス、フランス、オランダ、韓国などを取り上げる。途上国に関しても先駆的な事例として、タイなどを取り上げる。途上国の教育開発に関しては、教育学だけではなく、社会学や経済学のアプローチからも考察する。本授業の探究課題として、受講者が授業で扱った内容以外の国とその教育改革について調べ、自己の教員生活あるいは日本社会が抱える教育課題と関連付けて考察し、発表するという学修活動を設定している。</p>	
授業改善領域	主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅰ（言語活動・表現活動）	<p>自己の実践を相互に振り返り、児童・生徒の言語活動および表現に関する事例を整理する。また、現在までの研究成果を合わせて整理することで、その問題点を浮き彫りにする。同時にアクティブ・ラーニングに際しての留意点についても検討を行う。具体的に、言語活動では、児童・生徒の思考力・判断力・表現力等を育む観点からの指導の在り方を、表現活動では、感性や想像力等を豊かに働かせ、自己の心情や考え、イメージを基に自己表現できるようにする指導の在り方を明らかにすることを目指す。</p> <p>その上で、児童・生徒が主体的に学ぶアクティブ・ラーニングによる授業へ転換するための授業過程を構想し、教科横断的な視点、各教科等の特質に合わせた言語活動および表現活動について、それぞれ連携しながら具現するための指導理論と方法の修得を目指す。</p> <p>第1回～15回まで、12 太田 孝・15 小川 裕・16 渡部 憲生が共同で実施する。</p>	隔年、共同
	主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅱ（課題探求・解決力）	<p>本授業では、自己の実践を相互に振り返り、自己課題を明確にし、課題探求・解決力の価値について理解を深める。その上で、課題探求・解決力育成のための仮説を設定し、その解決のための視点や手立てを構想する。その構想を基に授業参観・授業実践をし、授業改善の視点や手立ての修正を行い、授業改善に資する。このサイクルを繰り返し、課題探求・解決力の育成を追究する。これら一連の活動を通して、課題探求・解決力の育成についての考察を深め、授業力を高めていく。</p> <p>第1回～15回まで、13 鈴木 昭夫・61 浜島 京子が共同で実施する（13 鈴木昭夫は令和5年度のみ）。</p>	隔年、共同
	主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅲ（協働的問題解決・自己有用感）	<p>主体的な学びをとらえる視点を、協働的問題解決を取り入れた授業のこれまでの研究成果に密着して、整理する。その上で、授業過程の構想と実践、分析と考察を行うことを通じて、主体的な学びの具現にむけた授業改善に必要な知識や素養を身に付ける。特に、構想と実践においては、学校現場の多様なニーズに応じること、理論と実践の統合を図ることを意識して行う。また、分析と考察では、実践を協同して振り返り省察すること、協同して実践の知恵を導くことを重視して行う。その上で、今日的な実践上の課題である自己有用感を高めることに関わってその周辺の課題を明らかにし、それらの課題の解決に向けて、実践を発展させる経験を積む。</p> <p>4 森本 明／共同6回、単独3回 児童生徒の協働的問題解決の力を高める工夫や、その力を高めるための授業過程の実践について解説する。「算数科」あるいは「数学科」の視点から、授業実践についての観察の視点や授業分析の方法について説明する。 14① 糺田 惣男／共同6回、単独3回（令和6年度以降は、14② 野木 勝弘） 児童生徒の協働的問題解決の力を高める工夫や、その力を高めるための授業過程の実践について解説する。「社会科」の視点から、授業実践についての観察の視点や授業分析の方法について説明する。 3 菅家 礼子／共同6回、単独3回 児童生徒の協働的問題解決の力を高める工夫や、その力を高めるための授業過程の実践について解説する。「体育科」の視点から、授業実践についての観察の視点や授業分析の方法について説明する。</p>	隔年、オムニバス方式・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択領域 授業改善領域	国語科授業デザイン論	<p>国語科の教師に新たに必要とされる知識や技能の習得とあわせ、国語科授業の新たなデザインを行う資質・能力の獲得を図る。その際、アクティブ・ラーニングによる国語科授業の在り方や方法について探究する学習指導要領に示される目標及び内容の理解を深めるとともに、優れた授業実践を分析・評価し、さらに、教科の専門的内容に関する最新の学術的動向への理解もふまえたうえで、これから求められる教科内容を構築する力と教材を開発する力を養い、授業実践力を高める。</p> <p>12 太田 孝／共同11回、単独0回 国語科教育学の立場から各領域にまたがり、主に高等学校を対象とした授業実践について授業実践力を高める支援を行う。併せて小・中・高等学校「言語事項」領域（文法）の授業実践について、最新の学術的動向を解説するとともに、授業づくりを支援する。</p> <p>22 佐藤 佐敏／共同14回、単独0回 国語科教育学の立場から各領域にまたがり、主に小・中学校を対象とした授業実践について授業実践力を高める支援を行う。</p> <p>48 高橋 由貴／共同4回、単独0回 近代文学研究の立場から、「読むこと」領域における授業実践について、最新の学術的動向を解説するとともに、授業づくりを支援する。</p> <p>24 井實 充史／共同4回、単独0回 古典文学研究の立場から、「読むこと」領域の古典教育における授業実践について、最新の学術的動向を解説するとともに授業づくりを支援する。</p> <p>23 半沢 康／共同4回、単独0回 言語学研究の立場から、「言語事項」領域（音声や方言）の授業実践について、最新の学術的動向を解説するとともに授業づくりを支援する。</p> <p>25 澁澤 尚／共同4回、単独0回 漢文学研究の立場から、「読むこと」領域の漢文教育における授業実践について、最新の学術的動向を解説するとともに授業づくりを支援する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	社会科授業デザイン論	<p>社会科の学びについて、改めてその誕生から現在までの歴史を振り返ったり、実践を協働で分析したりするなどし、社会科教育の本質をとらえ直すとともに、その背景となる社会科学の内容について強化する。また、主体的な学びを進めるために、現在の学習指導要領の目標、内容、指導方法や今日的課題について協働で省察、分析をする。そこで、分析したことをもとに、その解決法を協働で実践的に検証する。それらに基づき社会科授業をデザインする力を高める。</p> <p>14① 栢田 惣男／共同2回、単独11回（令和6年度以降は、14② 野木 勝弘） 社会科教育の視点から小中高校の社会科の教科目標や社会認識等教科を構成する要素等について解説し理解を深めさせるとともに、指導上の実践課題について討議させ、実践に生かせるようにする。</p> <p>27 初澤 敏生／共同3回、単独0回 高校地歴科の中の地理（人文）について取り上げて、その内容と系統性について解説し理解を深めさせるとともに、その実践上の課題について討議させる。</p> <p>28 小野原 雅夫／共同3回、単独0回 高校公民科の哲学・倫理について取り上げ、その内容と系統性について解説し理解を深めさせるとともに、その実践上の課題について討議させる。</p> <p>52 鍵和田 賢／共同3回、単独0回 高校地歴科の世界史について取り上げ、その内容と系統性について解説し理解を深めさせるとともに、その実践上の課題について討議させる。</p> <p>29 牧田 実／共同3回、単独0回 高校公民科の社会学について取り上げ、その内容と系統性について解説し理解を深めさせるとともに、その実践上の課題について討議させる。</p> <p>30 中村 洋介／共同3回、単独0回 高校地歴科の地理（自然）について取り上げ、その内容と系統性について解説し理解を深めさせるとともに、その実践上の課題について討議させる。</p> <p>51 小松 賢司／共同3回、単独0回 高校地歴科の日本史について取り上げ、その内容と系統性の解説をし理解を深めさせるとともに、その実践上の課題について討議させる。</p> <p>14② 野木 勝弘／共同2回、単独1回（令和5年度） 小学校社会科について取り上げ、その教材開発について解説し理解を深めさせるとともに、その実践上の課題について討議させる。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	算数・数学科授業デザイン論	<p>算数・数学の学びについて、これまでの算数・数学教育研究の成果ならびに学校現場における算数・数学授業研究の成果に密着してその視点を整理する。その上で、授業過程の構想と実践、分析と考察を行うことを通して、算数・数学の授業改善に必要な知識や素養を身につける。特に、構想と実践においては、学校現場の多様なニーズに応じること、理論と実践の統合を図ることを意識して行う経験を積む。また、分析と考察では、実践とともに振り返ることを重視する。その上で、今日的な実践上の課題を明らかにし、その課題の解決に向けて、協同して実践の知恵を導いたり実践を進展させたりする経験を積む。</p> <p>本科目は下記の担当方法・回数等で実施することを基本とするが、履修生の状況により変更することがある。</p> <p>4 森本 明／共同5回、単独10回 数学科教育学の立場から各領域にまたがり、主に小中学校を対象とした授業実践について授業実践力を高める支援を行う。</p> <p>26 中田 文憲／共同3回、単独0回 幾何学の立場から各領域にまたがり、主に中・高等学校を対象とした授業実践について授業実践力を高める支援を行う。授業実践について、最新の学術的動向を解説するとともに授業づくりを支援する。</p> <p>49 和田 正樹／共同3回、単独0回 解析学の立場から各領域にまたがり、主に中・高等学校を対象とした授業実践について授業実践力を高める支援を行う。授業実践について、最新の学術的動向を解説するとともに授業づくりを支援する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択領域 授業改善領域	理科授業デザイン論	<p>理科授業の改善を図るために、自己課題を見いだすとともに、これから求められる理科における学力や資質・能力について理解を深め、望ましい指導方法について構想する。具体的には、理科における今日的課題、現代的科学観、指導内容の系統性等を踏まえ、課題を明確にし、児童・生徒理解、教材研究、指導内容の関連性等から深く研究する。その上で、授業参観等の授業実践を基に授業改善について考察を行う。その際、PBLの手法を取り入れるとともに、教材研究に当たっては専門的な知見やICT等の活用をふまえる。</p> <p>第1回～15回まで、13 鈴木 昭夫・7 平中 宏典・50 水澤 玲子が共同で実施する(13 鈴木 昭夫は令和5年度のみ)。</p>	共同
	音楽科授業デザイン論	<p>自己の実践を相互に振り返り、学校における音楽科、芸術科(音楽)教育の意義を考究し、小・中・高を通じて育成すべき資質・能力について整理するとともに、現在までの研究成果や事例等を整理し、現状と課題を明らかにする。具体的には、「資質・能力の三つの柱」の視点から音楽科、芸術科(音楽)の資質・能力を整理し、それを育成するための授業理論と方法を検討する。同時に、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた資質・能力の育成について検討し、教科横断的な視点も含むカリキュラム・マネジメントの考え方や方法、教科の特性を活かした授業の在り方について理解を深める。</p> <p>その上で、題材、教材の実践における「音楽的な感受」の在り方を核に授業実践を検討しながら、感性や想像力等を豊かに働かせて主体的・創造的に音楽表現したり鑑賞したりする能力を児童・生徒に育てるための指導理論と実践方法の修得を目指す。</p> <p>第1回～15回まで15 小川 裕・35 杉田 政夫・36 中畑 淳・37 今尾 滋・38 横島 浩が共同で実施する。</p>	共同
	図画工作・美術科授業デザイン論	<p>児童・生徒の豊かな造形表現及び鑑賞の能力を育てるために、発達段階に即した造形表現カリキュラムの組み立て方や、生活に関連した教材や指導法の在り方を探究する。その際、美術教育における「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の評価指標在り方も考え深めていく。さらに、他教科や生活指導、学校行事などとの関連性を重視し、プロジェクト学習としての構成法をグループで探究するなどして、学校における芸術活動の総合的な展開について追求する。また、図工・美術科における「個別最適な学び」「協働的な学び」について実践場面をもとに理解を深めていく。</p> <p>39 新井 浩／共同0回、単独2回 発達段階に即した造形表現カリキュラムの組み立て方や、教材や指導法の在り方を探究するために彫刻領域における授業実践について検討する。</p> <p>40 渡邊 晃一／共同0回、単独2回 発達段階に即した造形表現カリキュラムの組み立て方や、教材や指導法の在り方を探究するために絵画領域における授業実践について検討する。</p> <p>56 加藤 奈保子／共同0回、単独2回 発達段階に即した造形表現カリキュラムの組み立て方や、教材や指導法の在り方を探究するために鑑賞領域における授業実践について検討する。</p> <p>16 渡部 憲生／共同0回、単独9回 学校教育における図画工作・美術教育の諸問題について説明する。特に造形表現や鑑賞表現で定着させるべき諸能力、図画工作・美術教育における教育評価、デザイン・工芸領域における授業実践の構想について解説する。学校における芸術活動の総合的な展開、図工・美術科における「個別最適な学び」「協働的な学び」について検討する。</p>	オムニバス方式
	家庭科授業デザイン論	<p>児童・生徒が家庭生活への関心を高め、問題解決的に生活改善をはかる授業のあり方について実践を通して検討する。そのために、子どもの家庭生活実態、生活にかかわる専門科学、家庭科教育の現代的課題等を学ぶとともに、ICTの活用を含めた実践例を分析したり、自身が実施した実践を省察したりすることで、題材での学びを意識した授業デザインと教材の工夫について考察し、家庭科授業実践の視点や方法を身につける。</p> <p>本科目は下記の担当方法・回数等で実施することを基本とするが、履修生の状況により変更することがある。</p> <p>61 浜島 京子／共同3回、単独9回 家庭科教育学の視点から、児童・生徒が家庭生活への関心を高め実践的な態度を育成するための授業について、題材計画及びICTの活用を含めた授業内容・方法を探求し、授業実践力を高める支援を行う。</p> <p>44 角間 陽子／共同3回、単独1回 生活経営学の最新の知見と生活経営学からみた家庭科教育の現代的課題等を解説するとともに、授業デザインと教材の工夫について理解を促す。</p> <p>45 千葉 桂子／共同3回、単独1回 被服学の最新の知見と被服学からみた家庭科教育の現代的課題等を解説するとともに、授業デザインと教材の工夫について理解を促す。</p> <p>46 中村 恵子／共同3回、単独1回 調理学の最新の知見と調理学からみた家庭科教育の現代的課題等を解説するとともに、授業デザインと教材の工夫について理解を促す。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択領域 授業改善領域	体育科授業デザイン論	<p>体育科教育、身体や運動文化に関する新たな理論・知見を得るとともに、それらをもとに実践記録（映像や実践報告等）の分析及び検討を行う。児童生徒の主体的な学びの場としての授業を探究する。探究過程において、受講者自身の実践力向上のための課題（学びのための授業デザイン、教材の工夫、評価の工夫や教師の支援等）とその解決策を見出す。</p> <p>3 菅家 礼子／共同1回、単独3回 学び論に依拠しながら体育授業について解説する。身体文化（体操）の観点から、学びのための授業デザイン、教材の工夫、評価の工夫や教師の支援等について説明する。</p> <p>60 松本 健太／共同1回、単独2回 体育科教育の最新の理論について解説する。それらの理論に基づいた、体育授業の授業デザイン、教材の工夫、評価の工夫や教師の支援等について説明する。</p> <p>41 小川 宏／共同0回、単独2回 運動教材について、ネット型球技の視点から解説する。また、体育原理の観点から、体育授業の授業デザイン、教材の工夫、評価の工夫や教師の支援等について説明する。</p> <p>42 安田 俊広／共同0回、単独2回 体育授業に必要な運動生理学の説明を行う。運動生理学に関する最新の知見を取り入れることで、体育授業における学びのための授業デザイン、教材の工夫、評価の工夫や教師の支援等について理解を深める。</p> <p>59 本嶋 良恵／共同0回、単独2回 体育授業に必要なバイオメカニクスの説明を行う。運動教材について器械運動の観点から、体育授業の授業デザイン、教材の工夫、評価の工夫や教師の支援等について説明する。</p> <p>57 杉浦 弘一／共同0回、単独2回 体育授業に必要なスポーツ医学の説明を行う。スポーツ医学の知見をもとに授業実践の内容を解説する。また、運動教材について、ゴール型球技の立場から担当する。</p> <p>58 蓮沼 哲哉／共同0回、単独2回 体育科の授業実践について、体育社会学の観点から解説する。体育社会学の視点から、体育授業における実践力向上を目指せるように解説を行う。</p> <p>43 竹田 隆一／共同0回、単独1回 体育科の授業実践について、剣道の観点から解説する。剣道の観点から、体育授業における実践力向上を目指せるように解説を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	英語科授業デザイン論	<p>積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする主体的な英語学習者の育成を目指した英語授業の実践を探究する。</p> <p>第二言語習得、英語の言語構造、そして英語圏を中心とした外国文学及び文化的コードといった英語授業に関わる理論を学び、それぞれの理論に基づいて授業実践を考察することにより、自身の授業実践に対する問題意識を建設的に喚起しつつ、多角的視点で洗練された教育実践を自律的に研究する力を身につける。</p> <p>31 佐久間 康之／共同11回、単独0回 最新の第二言語学習メカニズムの観点から、4技能の指導に関する課題を解説するとともに、英語授業の実践に寄与する知識の習得を促す。</p> <p>54 高木 修一／共同11回、単独0回 最新の言語評価理論の観点から、4技能の指導に関する課題を解説するとともに、英語授業の実践に寄与する知識の習得を促す。</p> <p>55 真歩仁 しょうん／共同11回、単独0回 多角的な授業実践の観点から、児童・生徒が英語授業への関心を高める工夫とその実践方法について解説するとともに、英語授業の実践について授業分析の方法論の習得を促す。</p> <p>32 朝賀 俊彦／共同3回、単独0回 統語論と語彙意味論を中心に、英語学の最新の知見と英語学からみた英語科教育の現代的課題等を解説するとともに、授業デザインと教材の工夫について理解を促す。</p> <p>33 川田 潤／共同3回、単独0回 文学・文化理論の最新の知見と文学・文化理論からみた英語教育の現代的課題等を解説するとともに、授業実践の具体的アイデアについて理解を促す。</p> <p>34 高田 英和／共同3回、単独0回 英文学の最新の知見と英文学からみた英語教育の現代的課題等を解説するとともに、授業実践の具体的アイデアについて理解を促す。</p> <p>53 佐藤 元樹／共同3回、単独0回 統語論と形式意味論を中心に、英語学の最新の知見と英語学からみた英語科教育の現代的課題等を解説するとともに、授業デザインと教材の工夫について理解を促す。</p>	隔年、オムニバス方式・共同（一部）
	道徳科授業デザイン論	<p>考え、議論し、主体的・対話的で深い学びを実現する道徳科授業を実践するためには、道徳科の本質にふさわしい目標（ビジョン）をもち、「質の高い授業方法」による授業モデルを構築し、ねらい・発問・評価に関するデザインを作り上げたうえで、自己関与型、問題解決型、体験型の授業実践の実際を検証し、新たな授業モデルを構築し、それを現実化することが必要である。本授業では、1. 道徳及び道徳科授業の本質とは何か、2. 学習指導要領の基本的構造（ねらい・価値内容・評価の考え方）、3. 質の高い授業方法とその実際を講義した上で、4. 受講者の実践事例をもとに検討し、道徳科授業改善の方向性を検討する。</p>	
	生活科・総合的な学習の時間に関する授業デザイン論	<p>生活科や総合的な学習（探究）の時間を実践する上での課題を踏まえ、探究的な学びにより汎用的能力を身につける生活科、総合的な学習（探究）の時間の存在意義を設け、理解や先行実践の検討、自己実践の省察、実際の単元・授業の分析等から協働的に学ぶ。また、これらの学びによって子どもが主体となって学び、各教科等と関連づけられ、地域の特色を生かしたカリキュラム開発、そのためのカリキュラム・マネジメントを行う力の育成を図る。</p> <p>第1回～15回まで、13 鈴木 昭夫・19 宗形 潤子が共同で実施する（13 鈴木昭夫は令和5年度のみ）。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択領域 授業改善領域	ICTを活用した授業デザインと実際	学校におけるICT活用をカリキュラムや授業デザインの視座で捉え、教材研究、授業、評価など学校運営の様々な場面において、理論に基づくメタ的視点により実践できる力の獲得を目指す。具体的には、ICT環境の現状・課題と動向に関する理解を深め、個別最適な学び、協働的な学びによる深い学びを実現するカリキュラムの立案や授業デザインを検討する。また、蓄積されつつある効果的なICT活用の事例、進展するEduTechを想定した事例を参考に、ICT環境の整備と活用を立案し省察することで、理論的かつ実践的な理解を深める。	
	教育実践研究のためのデータ処理論	教育実践研究を行う際の研究法とデータ処理の理論と技法、それを研究として発表する方法を学ぶ。まず、調査法と実験法やその検証方法、妥当性と信頼性など研究法の基礎について学ぶ。また、平均値の比較をはじめとしたデータ処理および心理統計の基礎を修得する。その上で、先行研究を参考にした模擬的な調査について、研究計画の立案、調査の実施と分析および考察を行う。理論と実証的観点から教育実践を省察する力を身につけた教師の養成を目指す。	
	インクルーシブ理念と障害理解教育論	インクルーシブ理念を踏まえて、通常学級における障害の捉え方、特別支援教育の現状、および障害理解教育について学ぶ。まず、通常学級における特別支援教育の現状と課題について概観する。また、障害児・者に対する偏見・差別の形成と解消について、心理学および社会学の観点から理論的な考察を行う。その上で、障害理解教育に関する指導案の作成および模擬授業と議論を交えて、学校や社会における障害理解の促進の重要性を理解した教師の養成を目指す。	
特別支援に関する理論と実践領域	知的・発達障害教育特論	知的障害および発達障害に関する理論と実践について学ぶ。まず、感覚・知覚、注意、記憶、感情・言語、心的イメージ、運動の各観点から、知的障害と発達障害を対象とした感覚・知覚・認知特性の基礎を理解する。また、幼児期から青年期までの各段階における知的障害と発達障害の発達特性について学ぶ。その上で、事例検討を通して実態把握の方法と解釈、および支援方法について考察する。理論に根ざした実践力のある教師の養成を目指す。	
	障害児に対する実践的指導方法の事例研究	障害のある子どもの障害特性を理解し、生活場面や授業場面における様々な困難や課題を明らかにするとともに、個性に基づいた教育的関わりを探り、障害のある児童生徒への実践的指導方法について事例検討や授業研究を通して理解を深める。また、特別支援学校で学ぶ「知的障害」、「肢体不自由」、「病弱児」の事例を取り上げ、各教科等の指導及び自立活動の指導の現状と課題を把握するとともに、「個別の指導計画」の作成を通して、障害による生活上又は学習上の課題を改善克服するための具体的な指導内容や指導方法について検討する。	
	障害児に対する実践的指導方法の実際	知的障害、肢体不自由、病弱、あるいは自閉症スペクトラム障害など、学部新卒院生の教育実習や現職派遣教員院生の教育実践の経験をとおり、特別支援学校における障害のある子どもの発達にかかわる観点を中心にどのような教育課題があったか話し合ったり、障害児に対する指導法の実際について学ぶ。個別の指導計画および個別の教育支援計画の作成、教材開発、校内委員会などについて実践的な支援方法の習得を目指す。また、子供と子供を取り巻く学校、家庭を中心とした教育課程について話し合い、各自の研究課題との関連や連携協力校での実習との関連から考察していく。	
	応用行動分析学からみた知的障害教育の事例と実践	特別支援学校において知的障害、肢体不自由、病弱、あるいは自閉症スペクトラム障害との重複など多様な実態の児童生徒を理解し、それぞれの児童生徒の教育的ニーズに応じた実践的指導方法を理論的な観点から学ぶ。具体的には応用行動分析学の「機能分析」の考え方もとづき、子供と子供を取り巻く環境との相互関係の視点から、児童生徒が示すさまざまな行動問題に焦点をあて、児童生徒の行動理解と実際の指導方法について検討していく。特別支援学校の学校における実習にいかせるよう実践的に学び、省察することを目指す。	
	自立活動の事例と実践	主に肢体不自由児を対象として自立活動の理論と実践について学ぶ科目である。自立活動の歴史の変遷や授業内容、教師の専門性の向上、他職種との協働の必要性など、障害種に応じた効果的な自立活動の実践について授業分析を通して学ぶとともに、個々の児童生徒の実態に即して作成される「個別の指導計画」の策定手順や活用について講義および事例検討を通じた学びにより、深い省察を行う。また、知的障害を伴う重度・重複障害児に対する自立活動についても理解することで、障害の重複化・多様化に対応できるより質の高い授業づくりについて研究を進めていく。	
	病弱児教育の事例と実践	学齢期における子どもの病気には様々な病態があり、入院治療や長期間の療養を余儀なくされることから教育活動に様々な制限を受けることが多い。病弱児の教育は特別支援学校、特別支援学級、通級、院内学級、自宅等様々な場所で行われるが、医療の進歩による入院期間の短縮や通院による治療の拡大、精神疾患のある子どもへの対応など、病弱教育を取り巻く現状は大きく変化している。また、情緒の安定や意欲の向上は病状の回復にも影響するといわれることから、本人や家族の精神的なサポートも非常に大切である。病弱児教育における様々な事例と実践を通して、これらの現状や課題について整理するとともに、幼児児童生徒の学習を保証し、学ぶ意欲を継続させるための取り組みを検討する。	
学校における実習領域	インターンシップ I	本授業は、学部新卒生用である。大学教員や附属校等教員の指導、現職教員学生の支援を得ながら、教科指導・授業づくりだけでなく、生徒指導・生活指導、学級経営・学級づくりをはじめとする教員の仕事の総体を1年間にわたって経験し、そこで直面する課題に取り組み、省察（リフレクション）し記録する、基盤となる力を身に付ける。そのうえで、4～5月に学部新卒それぞれが配属する実習校との綿密な事前打合せを行い、実習の見直しをもつことができるようにする。 1 谷 雅泰・2 中田 スウラ・3 菅家 礼子・4 森本 明・5 鶴巻 正子・6 坂本 篤史・7 平中 宏典・8 高橋 純一・9 植田 啓嗣・10 宮武 泰・11 大橋 淳子・12 太田 孝・13 鈴木 昭夫・14① 糀田 惣男・15 小川 裕・17① 片寄 一・18 小檜山 宗浩・19 宗形 潤子・20 高野 孝男・21 鳴川 哲也で共同実施する（13 鈴木 昭夫・14① 糀田 惣男・17① 片寄 一は令和5年度のみ。令和6年度以降は、14② 野木 勝弘・17② 柳沼 哲）。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学校における実習領域	長期インターンシップⅡ	<p>本授業は、学部新卒学生用である。長期インターンシップⅠで身に付けた教科指導・授業づくりだけでなく、生徒指導・生活指導、学級経営・学級づくりをはじめとする教員の仕事の総体を1年間にわたって経験し、そこで直面する課題に取り組み、省察(リフレクション)し記録する、基盤となる力をもとに、学部新卒学生それぞれが実習校において実践し、週間カンファレンスと月1回の合同カンファレンスを通して、実践における事象の理論的理解を深め、「学校における実習」から「プロジェクト研究」へと学部新卒学生自身の実践課題を自覚することができるようにする。</p> <p>1 谷 雅泰・2 中田 スウラ・3 菅家 礼子・4 森本 明・5 鶴巻 正子・6 坂本 篤史・7 平中 宏典・8 高橋 純一・9 植田 啓嗣・10 宮武 泰・11 大橋 淳子・12 太田 孝・13 鈴木 昭夫・14① 糎田 惣男・15 小川 裕・17① 片寄 一・18 小檜山 宗浩・19 宗形 潤子・20 高野 孝男・21 鳴川 哲也で共同実施する(13 鈴木 昭夫・14① 糎田 惣男・17① 片寄 一は令和5年度のみ。令和6年度以降は、14② 野木 勝弘・17② 柳沼 哲)。</p>	共同
	教職専門実習Ⅰ	<p>本授業は、若手現職教員学生用であり、連携協力校などの先進的な授業実践、児童生徒支援活動を参観し、授業や児童生徒支援改革の見通しを持つ。カンファレンス等を通して参観事例について学生間あるいは大学教員等と意見交換すると共に、自分自身の教育活動を振り返る。</p> <p>1 谷 雅泰・2 中田 スウラ・3 菅家 礼子・4 森本 明・5 鶴巻 正子・6 坂本 篤史・7 平中 宏典・8 高橋 純一・9 植田 啓嗣・10 宮武 泰・11 大橋 淳子・12 太田 孝・13 鈴木 昭夫・14① 糎田 惣男・15 小川 裕・17① 片寄 一・18 小檜山 宗浩・19 宗形 潤子・20 高野 孝男・21 鳴川 哲也で共同実施する(13 鈴木 昭夫・14① 糎田 惣男・17① 片寄 一は令和5年度のみ。令和6年度以降は、14② 野木 勝弘・17② 柳沼 哲)。</p>	共同
	教職専門実習Ⅱ	<p>本授業は、ミドル・リーダー用であり、学校課題に対応するためのマネジメント力を育成するために、教育委員会・教育センター・連携協力校を訪問したり、学校における現職教育の企画運営に参加したりする。また、教育委員会や連携協力校等の主任クラスの役割(教務主任、現職主任、生徒指導主事等)をシャドウイングを通じて実地に学ぶ。</p> <p>1 谷 雅泰・2 中田 スウラ・3 菅家 礼子・4 森本 明・5 鶴巻 正子・6 坂本 篤史・7 平中 宏典・8 高橋 純一・9 植田 啓嗣・10 宮武 泰・11 大橋 淳子・12 太田 孝・13 鈴木 昭夫・14① 糎田 惣男・15 小川 裕・17① 片寄 一・18 小檜山 宗浩・19 宗形 潤子・20 高野 孝男・21 鳴川 哲也で共同実施する(13 鈴木 昭夫・14① 糎田 惣男・17① 片寄 一は令和5年度のみ。令和6年度以降は、14② 野木 勝弘・17② 柳沼 哲)。</p>	共同
	学校支援実習Ⅰ	<p>本授業は、若手現職教員学生用であり、連携協力校において、学部新卒学生のメンターとして定期的継続的にカンファレンス等を実施すると共に、チーム学校の一員として授業や行事等の支援を行う。支援した教育実践については、ラウンドテーブルでの実践報告を視野に入れて記録をまとめ報告する。</p> <p>1 谷 雅泰・2 中田 スウラ・3 菅家 礼子・4 森本 明・5 鶴巻 正子・6 坂本 篤史・7 平中 宏典・8 高橋 純一・9 植田 啓嗣・10 宮武 泰・11 大橋 淳子・12 太田 孝・13 鈴木 昭夫・14① 糎田 惣男・15 小川 裕・17① 片寄 一・18 小檜山 宗浩・19 宗形 潤子・20 高野 孝男・21 鳴川 哲也で共同実施する(13 鈴木 昭夫・14① 糎田 惣男・17① 片寄 一は令和5年度のみ。令和6年度以降は、14② 野木 勝弘・17② 柳沼 哲)。</p>	共同
	学校支援実習Ⅱ	<p>本授業は、ミドル・リーダー用であり、チーム学校を支えるために、若い現職学生や学卒学生、講師等に指導・助言する。チーム学校の一員として、授業や学校行事等に参画する。支援した教育実践については、ラウンドテーブルでの実践報告を視野に入れて記録をまとめ報告する。</p> <p>1 谷 雅泰・2 中田 スウラ・3 菅家 礼子・4 森本 明・5 鶴巻 正子・6 坂本 篤史・7 平中 宏典・8 高橋 純一・9 植田 啓嗣・10 宮武 泰・11 大橋 淳子・12 太田 孝・13 鈴木 昭夫・14① 糎田 惣男・15 小川 裕・17① 片寄 一・18 小檜山 宗浩・19 宗形 潤子・20 高野 孝男・21 鳴川 哲也で共同実施する(13 鈴木 昭夫・14① 糎田 惣男・17① 片寄 一は令和5年度のみ。令和6年度以降は、14② 野木 勝弘・17② 柳沼 哲)。</p>	共同
	教育実践高度化実習	<p>本授業は、若手現職教員学生用であり、拠点校の教員とT・T等を組み、教科指導・授業づくりと研究・提案授業、学級経営・学級づくり、不登校・特別支援等の児童生徒への対応などの各自の研究課題に即して実習を展開する。研究課題に応じて分散型、集中型で行う。</p> <p>1 谷 雅泰・2 中田 スウラ・3 菅家 礼子・4 森本 明・5 鶴巻 正子・6 坂本 篤史・7 平中 宏典・8 高橋 純一・9 植田 啓嗣・10 宮武 泰・11 大橋 淳子・12 太田 孝・13 鈴木 昭夫・14① 糎田 惣男・15 小川 裕・17① 片寄 一・18 小檜山 宗浩・19 宗形 潤子・20 高野 孝男・21 鳴川 哲也で共同実施する(13 鈴木 昭夫・14① 糎田 惣男・17① 片寄 一は令和5年度のみ。令和6年度以降は、14② 野木 勝弘・17② 柳沼 哲)。</p>	共同
	学校課題対応実習	<p>本授業は、ミドル・リーダー用であり、各自の研究課題に即して、当該校の協働実践研究・校内研究に研究協力者として関わる。その学校で行われる研究協力者会議(仮称)や公開研究会に参加し、研究協議や指導助言を行ったり、あるいは教員研修等を企画運営したりする。</p> <p>1 谷 雅泰・2 中田 スウラ・3 菅家 礼子・4 森本 明・5 鶴巻 正子・6 坂本 篤史・7 平中 宏典・8 高橋 純一・9 植田 啓嗣・10 宮武 泰・11 大橋 淳子・12 太田 孝・13 鈴木 昭夫・14① 糎田 惣男・15 小川 裕・17① 片寄 一・18 小檜山 宗浩・19 宗形 潤子・20 高野 孝男・21 鳴川 哲也で共同実施する(13 鈴木 昭夫・14① 糎田 惣男・17① 片寄 一は令和5年度のみ。令和6年度以降は、14② 野木 勝弘・17② 柳沼 哲)。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プロジェクト研究領域	教育実践高度化プロジェクト研究Ⅰ	<p>本授業は、学部新卒学生および若手現職教員学生用であり、「実習における実践」と、共通科目及び選択科目に関する教育理論および学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。1年前期に配置し、研究課題を明確にする。</p> <p>1 谷 雅泰・2 中田 スウラ・3 菅家 礼子・4 森本 明・6 坂本 篤史・7 平中 宏典・9 植田 啓嗣・10 宮武 泰・11 大橋 淳子・12 太田 孝・13 鈴木 昭夫・14① 栴田 惣男・15 小川 裕・19 宗形 潤子・20 高野 孝男・21 鳴川 哲也で共同実施する(13 鈴木 昭夫・14① 栴田 惣男は令和5年度のみ。令和6年度以降は、14② 野木 勝弘)。</p>	共同
	教育実践高度化プロジェクト研究Ⅱ	<p>本授業は、学部新卒学生および若手現職教員学生用であり、実習における「実践」と、共通科目及び選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。1年後期に配置し、連携協力校での実践を分析しながら課題解決法を探究する。</p> <p>1 谷 雅泰・2 中田 スウラ・3 菅家 礼子・4 森本 明・6 坂本 篤史・7 平中 宏典・9 植田 啓嗣・10 宮武 泰・11 大橋 淳子・12 太田 孝・13 鈴木 昭夫・14① 栴田 惣男・15 小川 裕・19 宗形 潤子・20 高野 孝男・21 鳴川 哲也で共同実施する(13 鈴木 昭夫・14① 栴田 惣男は令和5年度のみ。令和6年度以降は、14② 野木 勝弘)。</p>	共同
	教育実践高度化プロジェクト研究Ⅲ	<p>本授業は、学部新卒学生および若手現職教員学生用であり、実習における「実践」と、共通科目及び選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。2年前期に配置し、授業等を計画し、教育実践を行い、ディスカッション等を通して省察する。</p> <p>1 谷 雅泰・2 中田 スウラ・3 菅家 礼子・4 森本 明・6 坂本 篤史・7 平中 宏典・9 植田 啓嗣・10 宮武 泰・11 大橋 淳子・12 太田 孝・13 鈴木 昭夫・14① 栴田 惣男・15 小川 裕・19 宗形 潤子・20 高野 孝男・21 鳴川 哲也で共同実施する(13 鈴木 昭夫・14① 栴田 惣男は令和5年度のみ。令和6年度以降は、14② 野木 勝弘)。</p>	共同
	教育実践高度化プロジェクト研究Ⅳ	<p>実習における「実践」と、共通科目及び選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。学生自身の研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。2年後期に配置し、実践結果の分析・評価を行うと共に、課題検証の実践を行う。</p> <p>1 谷 雅泰・2 中田 スウラ・3 菅家 礼子・4 森本 明・6 坂本 篤史・7 平中 宏典・9 植田 啓嗣・10 宮武 泰・11 大橋 淳子・12 太田 孝・13 鈴木 昭夫・14① 栴田 惣男・15 小川 裕・19 宗形 潤子・20 高野 孝男・21 鳴川 哲也で共同実施する(13 鈴木 昭夫・14① 栴田 惣男は令和5年度のみ。令和6年度以降は、14② 野木 勝弘)。</p>	共同
学校課題対応領域	学校課題対応プロジェクト研究Ⅰ	<p>本授業は、ミドル・リーダー用であり、実習における「実践」と、共通科目及び選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。学校課題に対応した研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。1年前期に配置し、学校課題に対応した研究課題を明確にする。</p> <p>1 谷 雅泰・2 中田 スウラ・3 菅家 礼子・4 森本 明・6 坂本 篤史・7 平中 宏典・9 植田 啓嗣・10 宮武 泰・11 大橋 淳子・12 太田 孝・13 鈴木 昭夫・14① 栴田 惣男・15 小川 裕・19 宗形 潤子・20 高野 孝男・21 鳴川 哲也で共同実施する(13 鈴木 昭夫・14① 栴田 惣男は令和5年度のみ。令和6年度以降は、14② 野木 勝弘)。</p>	共同
	学校課題対応プロジェクト研究Ⅱ	<p>本授業は、ミドル・リーダー用であり、実習における「実践」と、共通科目及び選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。学校課題に対応した研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。1年後期に配置し、連携協力校での実践を分析しながら課題解決法を探究する。</p> <p>1 谷 雅泰・2 中田 スウラ・3 菅家 礼子・4 森本 明・6 坂本 篤史・7 平中 宏典・9 植田 啓嗣・10 宮武 泰・11 大橋 淳子・12 太田 孝・13 鈴木 昭夫・14① 栴田 惣男・15 小川 裕・19 宗形 潤子・20 高野 孝男・21 鳴川 哲也で共同実施する(13 鈴木 昭夫・14① 栴田 惣男は令和5年度のみ。令和6年度以降は、14② 野木 勝弘)。</p>	共同
	学校課題対応プロジェクト研究Ⅲ	<p>本授業は、ミドル・リーダー用であり、実習における「実践」と、共通科目及び選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。学校課題に対応した研究課題に基づいて教育実践を行い、ディスカッションを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。2年前期に配置し、授業等を計画し、教育実践を行い、ディスカッション等を通して省察する。</p> <p>1 谷 雅泰・2 中田 スウラ・3 菅家 礼子・4 森本 明・6 坂本 篤史・7 平中 宏典・9 植田 啓嗣・10 宮武 泰・11 大橋 淳子・12 太田 孝・13 鈴木 昭夫・14① 栴田 惣男・15 小川 裕・19 宗形 潤子・20 高野 孝男・21 鳴川 哲也で共同実施する(13 鈴木 昭夫・14① 栴田 惣男は令和5年度のみ。令和6年度以降は、14② 野木 勝弘)。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プロジェクト研究領域	学校課題対応プロジェクト研究Ⅳ	<p>本授業は、ミドル・リーダー用であり、実習における「実践」と、共通科目及び選択科目に関する教育理論と学校現場での問題解決の方法論の往還を企図した科目である。学校課題に対応した研究課題に基づいて教育実践を行い、カンファレンスを通して省察し、再度課題設定をしながら教育実践の改善を行うことによって、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。2年後期に配置し、実践結果の分析・評価を行うと共に、課題検証の実践を行う。</p> <p>1 谷 雅泰・2 中田 スウラ・3 菅家 礼子・4 森本 明・6 坂本 篤史・7 平中 宏典・9 植田 啓嗣・10 宮武 泰・11 大橋 淳子・12 太田 孝・13 鈴木 昭夫・14① 栞田 惣男・15 小川 裕・19 宗形 潤子・20 高野 孝男・21 鳴川 哲也で共同実施する(13 鈴木 昭夫・14① 栞田 惣男は令和5年度のみ。令和6年度以降は、14② 野木 勝弘)。</p>	共同
	特別支援教育実践プロジェクト研究Ⅰ	<p>実習(学校実習あるいは長期インターンシップ)における「実践」と、共通科目及び選択科目(障害児に対する実践的指導方法の事例研究)に関する「教育理論と学校現場での問題解決の方法論」の往還を企図した科目である。これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。Ⅰは1年前期に配置し、各自の研究課題を明確にする。</p> <p>5 鶴巻 正子・8 高橋 純一・17① 片寄 一・18 小檜山 宗浩で共同実施する(17① 片寄 一は令和5年度のみ。令和6年度以降は、17② 柳沼 哲)。</p>	共同
	特別支援教育実践プロジェクト研究Ⅱ	<p>実習(学校実習あるいは長期インターンシップ)における「実践」と、共通科目及び選択科目(障害児に対する実践的指導方法の事例研究)に関する「教育理論と学校現場での問題解決の方法論」の往還を企図した科目である。これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。Ⅱは1年後期に配置し、連携協力校での状況を分析しながら課題解決法を探究する。</p> <p>5 鶴巻 正子・8 高橋 純一・17① 片寄 一・18 小檜山 宗浩で共同実施する(17① 片寄 一は令和5年度のみ。令和6年度以降は、17② 柳沼 哲)。</p>	共同
	特別支援教育実践プロジェクト研究Ⅲ	<p>実習(学校実習あるいは長期インターンシップ)における「実践」と、共通科目及び選択科目(障害児に対する実践的指導方法の事例研究)に関する「教育理論と学校現場での問題解決の方法論」の往還を企図した科目である。これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。Ⅲは2年前期に配置し、授業等を計画し、教育実践を行い、カンファレンス等を通して省察する。</p> <p>5 鶴巻 正子・8 高橋 純一・17① 片寄 一・18 小檜山 宗浩で共同実施する(17① 片寄 一は令和5年度のみ。令和6年度以降は、17② 柳沼 哲)。</p>	共同
	特別支援教育実践プロジェクト研究Ⅳ	<p>実習(学校実習あるいは長期インターンシップ)における「実践」と、共通科目及び選択科目(障害児に対する実践的指導方法の事例研究)に関する「教育理論と学校現場での問題解決の方法論」の往還を企図した科目である。これまでの実践の省察、教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで、理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。Ⅳは2年後期に配置し、実践結果の分析・評価を行うと共に、課題検証の実践を行う。2年間の実践を実践報告書にまとめ、ラウンドテーブルで報告する。</p> <p>5 鶴巻 正子・8 高橋 純一・17① 片寄 一・18 小檜山 宗浩で共同実施する(17① 片寄 一は令和5年度のみ。令和6年度以降は、17② 柳沼 哲)。</p>	共同

国立大学法人福島大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
福島大学				福島大学				
人文社会学群			3年次	人文社会学群			3年次	
人間発達文化学類	260	10	1,060	人間発達文化学類	260	10	1,060	
行政政策学類			3年次	行政政策学類			3年次	
昼間	185	10	760	昼間	185	10	760	
夜間主	20	-	80	夜間主	20	-	80	
経済経営学類	220	10	900	経済経営学類	220	10	900	
理工学群				理工学群				
共生システム理工学類	160	-	640	共生システム理工学類	160	-	640	
農学群				農学群				
食農学類	100	-	400	食農学類	100	-	400	
計	945	30	3,840	計	945	30	3,840	
福島大学大学院				福島大学大学院				
人間発達文化研究科				人間発達文化研究科	0	-	0	令和5年4月学生募集停止
教職実践専攻(P)	16	-	32	教職実践専攻(P)	0	-	0	令和5年4月学生募集停止
地域文化創造専攻(M)	17	-	34	地域文化創造専攻(M)	0	-	0	令和5年4月学生募集停止
学校臨床心理専攻(M)	7	-	14	学校臨床心理専攻(M)	0	-	0	令和5年4月学生募集停止
地域政策科学研究科				地域政策科学研究科				
地域政策科学専攻(M)	20	-	40	地域政策科学専攻(M)	0	-	0	令和5年4月学生募集停止
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻(M)	10	-	20	経済学専攻(M)	0	-	0	令和5年4月学生募集停止
経営学専攻(M)	12	-	24	経営学専攻(M)	0	-	0	令和5年4月学生募集停止
共生システム理工学研究科				共生システム理工学研究科				
共生システム理工学専攻(M)	53	-	106	共生システム理工学専攻(M)	40	-	80	定員変更(13)
環境放射能学専攻(M)	7	-	14	環境放射能学専攻(M)	5	-	10	定員変更(2)
共生システム理工学専攻(D)	4	-	12	共生システム理工学専攻(D)	4	-	12	
環境放射能学専攻(D)	2	-	6	環境放射能学専攻(D)	2	-	6	
計	148	-	302	計	125	-	256	
				地域デザイン科学研究科				
				人間文化専攻(M)	20	-	40	
				地域政策科学専攻(M)	8	-	16	
				経済経営専攻(M)	14	-	28	
				教職実践研究科				研究科の設置(事前相談)
				教職高度化専攻(P)	12	-	24	
				食農科学研究科				研究科の設置(意見伺い)
				食農科学専攻(M)	20	-	40	